

APPARATUS TO MANUFACTURE OPTICAL FIBER MATERIAL

Patent Number: Sho 52-103843

Publication date: unknown

Inventor(s): TADAYOSHI TANIKAWA, SHIGETOKI SUGIMOTO

Applicant(s): NEC CORP

Abstract

PURPOSE: To provide the heating body that heats and melt the tubular optical fiber material with accumulated optical fiber glass on the inner walls into rod-like optical fiber material without any air gap and the container that keeps the said heating body in the air excluding the acid air to prevent consumption of the heating body while the structure keeping the quantity of flowing air in the said container, moving elastically along the lengthwise direction of the material and covering said tubular glass material.

⑬日本国特許庁

⑭実用新案出願公開

公開実用新案公報

昭52-103843

⑯Int. Cl.	識別記号	⑰日本分類	庁内整理番号	⑱公開	昭和52年(1977)8月6日
G 02 B 5/14		104 A 0	7529-23		
C 03 B 37/00		21 A 41	7417-41		
		21 A 42	7417-41	審査請求	未請求
		42 E 1	7445-47		

(全 2 頁)

⑳光ファイバ素材の製造装置

㉑考案者 杉元重時

東京都港区芝五丁目33番1号日

本電気株式会社内

㉒実 願 昭51-11714

㉓出 願 昭51(1976)2月4日

㉔出 願 人 日本電気株式会社

㉕考案者 谷川侃是

東京都港区芝五丁目33番1号

東京都港区芝五丁目33番1号日

㉖代 理 人 弁理士 内原晋

本電気株式会社内

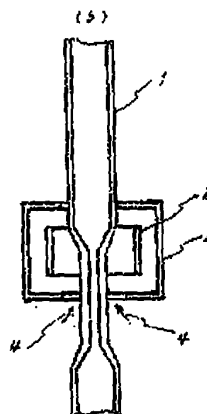
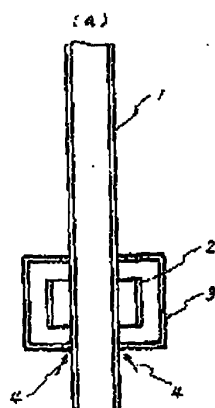
㉗実用新案登録請求の範囲

内壁に光ファイバガラスが堆積された管状の光ファイバ素材を加熱溶融し空隙のない棒状ガラス素材に加工するための加熱体と、該加熱体の消耗を防ぐための前記加熱体を酸化性気体を含まない雰囲気中に保つ容器とを含む光ファイバ素材の製造装置において、前記容器に容器内を流れる雰囲気の流れ量をほぼ一定に保ち、前記管状ガラス素材の軸方向に伸縮可能でかつ前記管状ガラス素材の一部をおろし機構部を設けたことを特徴とする光ファイバ素材の製造装置。

図面の簡単な説明

第1図は、従来の光ファイバ素材の製造装置の概略図、第2図は本考案の一実施例を示す概略図である。図において、1、5は内壁に光ファイバガラスが堆積されたガラス管、2、6はガラス管の一部を加熱、溶接する加熱体、3、7は加熱体を酸化性気体を含まない雰囲気中に保つための容器、4、10は酸化性気体を含まない気体の送気方向を示す矢印、8は容器7に設けた伸縮可能な機構部、9は伸縮可能機構部8の端部をそれぞれ表わす。

第1図



実開 昭52-103843(2)

第 2 図

